

総務経済常任委員会記録簿

会議日時	令和8年2月20日(金)	午前8:55~10:03	
場所	議員控室		
出席委員	元井委員長	中村副委員長	池田委員
	伊東委員	(向野委員)	
欠席委員			
説明のための出席した者の職氏名	農林課長補佐 太原・奄美せとうち地域公社職員 植村		
付議事件	第三セクターに関する調査について 「奄美せとうち地域公社(瀬相きび酢工場)の現地聞き取り調査」		
担当職員名	喜屋武 純仁		
会 議 の 概 要			
1.【製品と品質について】			
Q: 産地によって「きび酢」の味や成分に違いはありますか?			
A: はい、異なります。与論島(世論)のきび酢はカリウムが非常に高く、かけろま島(かけるもの)のきび酢はカルシウムが高くフルーティーで丸みがあるのが特徴です。なお、比較に出たホワイトビネガーは風味や色をすべて飛ばして癖をなくしたものです。			
Q: 新規のお客さんにはどのような飲み方を提案していますか?			
A: 水や炭酸で割る(割合は6:4など)飲み方のほか、焼酎に入れてハイボールにする飲み方などを提案しています。カップ麺にかけて味を変えつつミネラルを摂取するといった手軽な使い方も勧めています。			
2.【組織と経営状況について】			
Q: 現状の職員体制はどうなっていますか?			
A: 契約職員を含めて約9名体制です(うち契約職員が7名)。正職員は1名で、町長を含めると2名という体制になっています。			
Q: 今期の経営(収支)状況はどうなっていますか?			
A: 今期は赤字で終わる見込みです。営業収益で300万~400万円の赤字、経常利益ベースでは約700万円(800万円近く)の赤字となります。			
Q: 赤字の主な原因は何ですか?			
A: 1月など冬場の売り上げ不振、加工品の取引減少に加えて、車検・廃車費用(約70万円)、そして地域公社の引き継ぎ(M&A)にかかった弁護士費用など約430万円が大きいのしかかったためです。			

Q: 年間の売上目標と黒字化のラインはどのくらいですか？

A: 年間の売上目標は 4000 万～5000 万円に設定しています。5000 万円売り上げることができれば、黒字化(クロス)できると見込んでいます。商品の利益率自体はかなり良い状態です。

3.【営業・販売戦略について】

Q: 物産展での販売実績や宣伝効果は出ていますか？

A: 11 回の物産展への参加で約 130 万円を売り上げました。旅費などの経費と相殺すると利益は出ていませんが、奄美の PR や知名度向上としては効果があったと評価しています。また、自社製品だけでなく他社の特産品(ジャムやお茶など)を並べることで、売り場にお客さんが滞在する時間を伸ばす工夫もしています。

Q: 観光客向けのお土産として、どのような工夫をしていますか？

A: 瓶の重さやサイズがネックになっていたため、持ち帰りやすく価格も手頃なプラスチック製の「お試し用ボトル(約 800 円)」を導入しました。これが好評を得ています。

4.【生産体制とコストについて】

Q: きび酢の生産量を増やすことは可能ですか？

A: はい、可能です。年間 20 トンの仕込み量を目標としていますが、現状の設備やタンクの空き容量でも十分に実現可能である(今年度の仕込み見込みは 18 トン程度)。

Q: 製造過程で難しい点は何ですか？

A: 温度管理です。気温が 30 度を超えたり、逆に寒すぎたりすると菌の動きが鈍ってしまいます。そのため、状態の良い酵母や菌の膜を移し替えるなど、職人の目視と酸度の数値を頼りに品質を高める調整を行っています。

Q: 経費で負担になっているものは何ですか？

A: 化粧箱などのパッケージ仕入れに約 1000 万円(現状 800 万円超え)、輸送費に約 34 万円のコストがかかっており、利益を圧迫しています。

農林水産業の「輸送コスト支援事業」等の補助金を活用して箱代や輸送費を削減する提案がなされました。

5.【工場の設備と今後の展望について】

Q: 工場や設備の状態はどうなっていますか？

A: 昭和 58 年から使用しており、老朽化が極めて深刻です。

Q: 工場の改修計画はありますか？

A: はい。国からの補助金(奄振交付金)を活用し、作業動線を考慮した約 5800 万円規模の工場改修を行う計画が進められています。

Q: 将来的な事業拡大のビジョンはありますか？

A: まずは現在の工場運営を軌道に乗せることが大前提ですが、将来的に生産量を安定的に確保できる体制を整えば、大手企業と契約し、きび酢を使ったマヨネーズなどの加工品を展開したい。